

テーマ：2015年10-12月期GDP（2次速報値）の予測
～1次速報から変化なしと予想～

発表日：2016年3月1日（火）

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 新家 義貴
[TEL:03-5221-4528](tel:03-5221-4528)

3月8日に内閣府から公表される2015年10-12月期実質GDP（2次速報）を前期比年率▲1.4%（前期比▲0.4%）と、1次速報段階の前期比年率▲1.4%から変わらずと予想する。設備投資と公共投資の小幅下方修正を、在庫の若干の上方修正が打ち消し、全体では変化なしとなるだろう。個別の需要項目の修正幅自体も小さく、1次速報から景気認識に変更を迫るようなものにはならないだろう。

1次速報と同様にはっきりとしたマイナス成長であり、景気状況の厳しさが再確認される見込みである。なかでも消費の不振が際立っている。設備投資については（下方修正が見込まれるものの）前期比プラスを維持し、底堅さをみせているが、企業収益の急減速や海外景気不安の高まりといった懸念材料を抱えており、先行きについては下振れ含みだ。

最近公表された経済指標も冴えないものが目立つ。鉱工業生産では1-3月期の減産が示唆された上、1月の個人消費は下振れ、輸出もぱっとしない。牽引役不在の状況は未だ解消されておらず、1-3月期の景気も低調なものにとどまる可能性が高まりつつあるようだ。景気持ち直しが確認されるには今しばらく時間がかかるだろう。

2015年10-12月期GDP2次速報予測

1次速報実績

	(%)		(%)
実質GDP	▲ 0.4	▲ 0.4	
(前期比年率)	▲ 1.4	▲ 1.4	
民間最終消費支出	▲ 0.8	▲ 0.8	
民間住宅	▲ 1.2	▲ 1.2	
民間企業設備	1.2	1.4	
民間在庫品増加(寄与度)	▲ 0.1	▲ 0.1	
政府最終消費支出	0.5	0.5	
公的固定資本形成	▲ 3.2	▲ 2.7	
財貨・サービスの輸出	▲ 0.9	▲ 0.9	
財貨・サービスの輸入	▲ 1.4	▲ 1.4	
名目GDP	▲ 0.3	▲ 0.3	
(前期比年率)	▲ 1.2	▲ 1.2	

※断りの無い場合、前期比(%)

(出所)内閣府「国民経済計算」、第一生命経済研究所

設備投資は前期比+1.2%と、1次速報段階の+1.4%から若干下方修正されると予想する。本日公表された15年10-12月期の法人企業統計では、名目設備投資が季節調整済み前期比横ばいとどまり、GDP名目設備投資の1次速報値である前期比+1.2%を下回った。一方、1次速報で未公表だった12月分の経済指標の反映等により、供給側推計値は上方修正されるとみられ、全体としてみれば設備投資は1次速報から僅かな下方修正にとどまるだろう。設備投資は前期比で2四半期連続のプラス、前年比では3四半期連続のプラスであり、緩やかな増加傾向にあると判断される。もっとも、前述の通り、設備投資を取り巻く環境はここ

にきて悪化に転じつつある。16年以降の設備投資については慎重に見た方が良いだろう。

公共投資は前期比▲3.2%と予想する。1次速報段階で未公表だった15年12月分の建設総合統計の結果が反映されることで、1次速報の▲2.7%から下方修正されると予想する。

在庫投資は前期比年率寄与度▲0.3%Ptと、1次速報段階の▲0.5%Ptから若干の上方修正と予想する（前期比では▲0.1%Ptで変わらず）。原材料在庫と仕掛品在庫について法人企業統計の結果を反映させたことが影響している。